

## 形質細胞様の大型細胞を認めた ALK 陽性大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1 例

◎神楽所みほ<sup>1)</sup>、西 沙智圭<sup>1)</sup>、石川 佳那<sup>1)</sup>、山田 枝里佳<sup>1)</sup>、畑 諒祐<sup>1)</sup>、小林 一三<sup>1)</sup>、佐藤 信浩<sup>1)</sup>  
日本赤十字社 大阪赤十字病院<sup>1)</sup>

【はじめに】ALK 陽性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (ALK-positive large B-cell lymphoma : ALK<sup>+</sup>LBCL) は、ALK 蛋白を発現する単調な免疫芽球様の大型細胞からなる高悪性度の B 細胞リンパ腫で、大細胞型 B 細胞リンパ腫の 1% 以下の稀な疾患である。

【症例】50 代男性。慢性膵炎・糖尿病で近医通院中。8 月中旬、倦怠感・発熱・左足の上がりにくさを自覚し、8 月下旬、近医で高 LDH 血症を指摘され、9/7 前医受診となった。sIL-2R 高値および、CT で傍大動脈・鼠径リンパ節腫大と、CF・GF で十二指腸下行脚にリンパ腫を疑う病変を認め、9/15 当院へ転院となった。

## 【検査所見】

末梢血 : WBC $6.31 \times 10^9/L$  (Mye3.5%、Meta4.5%、Stab3.5%、Seg68.5%、Baso0.5%、Mono9.0%、Ly9.5%、At-Ly1.0%、Ebl1.0/100WBC)、RBC $2.55 \times 10^{12}/L$ 、Hb7.3g/dL、Plt $398 \times 10^9/L$ 、LDH2870U/L、sIL-2R3985.4U/mL、血清免疫電気泳動 M 蛋白(+)IgG- $\lambda$  型。  
骨髄(dry tap) : NCC6500/ $\mu L$ 、巨核球 (-)、大型・N/C 比

50~70%・好塩基性強・核偏在・核周明庭有・POD 染色陰性の形質細胞様細胞を 13.6% 認めた。FCM (CD4・CD30 陽性、CD2・CD3・CD7・CD8・CD19・CD20 陰性)、G-band (t(2;5)(p23;q35)含む複雑核型)。

リンパ節 : 免疫染色 (CD4・CD138・ALK 陽性、CD30・ $\lambda$  弱陽性~陽性、CD2・CD3・CD5・CD8・CD20・CD68・MPO・ $\kappa$  陰性)、遺伝子再構成

(TCR $\beta$  鎖-C $\beta$ 1 再構成検出なし、免疫グロブリン H 鎖 J<sub>H</sub> 再構成検出あり)。

十二指腸生検 : 免疫染色 (CD138 陽性、CD30 陰性~陽性、CD3・CD5・CD10・CD20・CD56・CD79a・Bcl-2・cyclin-D1 陰性)。

【まとめ】ALK・CD4 陽性、CD20 陰性の B 細胞性リンパ腫を経験した。本症例は、形質細胞様の大型細胞を認め、ALK<sup>+</sup>LBCL・ALK<sup>+</sup>ALCL・PBL などとの鑑別を要した。形態的観察のみならず FCM や免疫染色、遺伝子再構成などの結果を総合的に判断する必要があることを再認識した。

連絡先 : 06-6774-5111 (内線 : 2734)